

第12 回江東区都市計画マスタープラン2022推進会議【会議録】

開催日時	令和7年1月29日(水) 書面開催		
出席者 (敬称略・順不同)	【委員】 ＜委員長＞ 志村 秀明 ＜委員＞ 村木 美貴、市古 太郎、江守 央、森本 章倫、柳井 重人 【区職員】 都市整備部長、地下鉄8号線事業推進室長、都市計画課長、まちづくり推進課長、沿線まちづくり担当課長		
【議題】		【所管】	
西大島地域まちづくり方針【増補版】(素案)及び(仮称)大島三丁目駅前エリアまちづくり方針(素案)について		まちづくり推進課	
【議事概要】			
No	該当資料	委員の意見要旨	区の回答要旨
1	資料1-3	バリアフリーの観点からすると交差点を渡るためだけの立体的な移動設備(従来の立体横断設備など)は「高齢者にとって不便」などの意見がでるが、これを撤去して通常の横断歩道にするには、かなりの議論が必要となる。 一方、立体的な移動設備が連続的に繋がっていれば、このような意見も少なくなる。 非常時にも活用できるような移動空間が担保されることを望む。	エリアまちづくり方針の「4.4 公共施設等の整備方針」の中で、「非浸水デッキ・非浸水ネットワーク(構想)」を位置付けて、まちづくりを進めていく。
2	参考1	計画遂行が遅いという意見が多くあるが、何が要因なのか。 住民に協力してもらう事項はないのか。	まちづくりは住民の皆様の生活に影響を与える可能性があることから、公共利益を最大限に高めるために適切な手続きと時間が必要である。
3	参考1	防災面に関して、大島三丁目再開発でできること、西大島地域でできること、また江東区全域や東京都東部全体でできることを、地域に説明する必要がある。	今後予定されている説明会等で、震災・火災や風水害など防災面に関する説明行っていく。
4	参考1	大島三丁目駅前エリアを含めた西大島地域の拠点性をもっと盛り込むべき。	エリアまちづくり方針の「4.3 土地利用の方針」の中で、「地域核拠点エリア」として拠点性をまとめている。
5	資料1-3	明治通りはバス交通の幹線なので、それに対応する空間整備(都市計画道路の幅員に合わせた拡幅)を目標とすることは良い。	

6	資料1-3	P35 公共施設整備方針として「非浸水デッキ・非浸水ネットワーク」を位置付けることは、これまでの検討や浸水対応型市街地構想も踏まえて、妥当性がありますし、重要な提案である。	
7	資料1-2	P4「浸水対応型拠点エリアの形成」として図左下「浸水対応型拠点建築物の増加に伴い、浸水対応型拠点エリアは拡大していく」という計画論は、区民への大事なアピールになる。	
8	資料1-2	P4 図の範囲くらいで実際の要立ち退き避難者数と非浸水エリアの受入者数の対応関係について検討ができるとよい。	大島一～四丁目における避難対象者数と浸水時に安全を確保できる場所の受入人数の把握に努める。
9	資料1-3	P39 浸水対応型拠点建築物の整備イメージにおけるタワー棟屋上に「ヘリポート」の表現に加え、公共貢献として高層階に平常時からの展望デッキを現代の「さざえ堂」として検討できないか。事例として市川駅の「アイ・リンク・タウン」がある。	浸水対応型拠点建築物の整備イメージにおけるタワー棟屋上には、「ホバリングスペース」をイメージしている。高層階における展望デッキの検討については、施設計画の中で検討いただく。
【議題】			【所管】
その他			都市計画課
No	該当資料	委員の意見要旨	区の回答要旨
1	—	<p>今回、西大島の案件など重要な議題があったため、書面開催ではなく、対面開催が望ましかったと考える。</p> <p>大島三丁目に関する議題で重要な案件の場合は、年度末も対面で開催すべきである。</p> <p>また、年度末の開催に際しては、WEBによるオンライン参加も併用し、できるだけ多くの委員が出席できるよう柔軟に運営していただきたい。</p>	<p>事務局としても対面開催が望ましいと考えているが、委員の皆様全員が揃う日程がなく、やむなく書面開催とした。</p> <p>今後、案件内容を踏まえ、オンラインの併用も視野に入れるとともに、全員が揃わない場合でも対面で開催するか委員長と協議するなど、検討していく。</p>